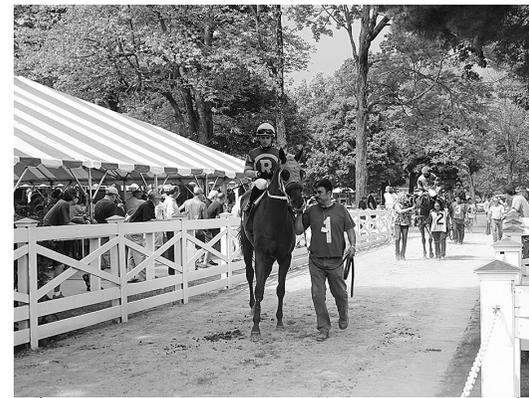


世界旅打ち気分

●第16回・サラトガ

須田鷹雄

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>の
#グリーンファーム会報#2019年6月号
でご覧いただけます



サラトガ競馬場でパドックから
本馬場に向かう馬



サラトガレースウェイのレース風景



スペースレンタルもできる名譽の殿堂

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

今回は、夏休みに出かける人を意識して、アメリカのサラトガを題材とした。

忘れないうちに2019年の開催予定を書いておくと、7月11日から9月2日。もちろんこの間開催する日とそうでない日があるの、NYRAのホームページ等で確認していただきたい。

ニューヨークからだと北に3時間ほどの場所にあるサラトガスプリングスはその名のとおり温泉などもある夏の保養先。良いホテルなどはさすがに競馬の時期は高くなる。ただ、最寄りの主要空港であるアルバーン空港(シカゴなどから乗り継ぎ便がある)からは片道40〜50分ほど。夏休みとはいえずバニヤまでホテルが高騰するということはないから、レンタカーで通えば十分だ。もっと近い場所でもいまはネットで探せるので手ごろなモーテルなどもある。

日本では夏競馬というとG1レースはひと休みだが、サラトガは大レースがたくさん。有名どころではCCAオークスやホイットニーS、アラバマス、スワードダンサーSなどなど、そしてなんといってもミッドサマーダービーと呼ばれるトラヴァースがある。さらに今料金は22ドル。トラヴァースの日以外は毎日やっているようだ。機会があったらぜひ参加していただきたい。

そして、サラトガスプリングスには実はもうひとつ競馬場がある。「サラトガカジノアンドレースウェイ」名前を聞けば分かるように、ハーネスレースの競馬場で、カジノが併設されている。

こちらの競馬場も今年で78年目というからなかなかの老舗。競馬場そのものはごく小じんまりしたもので、これといった特徴があるわけでもない。典型的なアメリカのハーネス競馬場という感じだ。ただ、カジノが併設されているという点と、ナイター開催があるので平地ハーネスのダブルヘッダーができるのは魅力だ。

開催は2月後半から12月前半までのほぼ年間開催で、原則として日・水・木・土の4日間開催。1レース発走時刻で12時、17時、18時45分、19時05分の4パターンがある。平地のサラトガがやっている夏は1レースの発走19時05分がほとんど。人数として多くはないが、「あの人さつき平地の競馬場にいたよね」という好事家も見かけなくはない。

年はサラトガダービーという3歳芝の100万ドルレースも創設された。どうやらニューヨーク州に「芝の3歳レース」というのが創設されたようで、その2冠目にあたる。3歳レースはそれぞれ100万ドルレースで、ダート三冠の距離を芝に移し、ベルモントダービー↓サラトガダービー↓ジョッキークラブダービーという形で行なわれる。同様に牝馬の芝三冠も創設された。

そういった大レースの日に行くかどうかはともかく、サラトガはアメリカらしいカジノと競馬の伝統を両方同時に味わえる楽しい競馬場だ。スタンドなどの施設は新しいわけではないのだが、赤と白を基調にしたデザインでうまくまとめられており、古臭さは感じない。常設のギフトショップもあるほか、馬の絵や馬モチーフのアクセサリーを売るテントがあったりして、買い物好きの日本人の需要にも応えてくれる。

レースでは、先に挙げたような平地の大レースももちろんおすめだが、障害レースが行なわれるのもサラトガ開催の見どころである(障害のG1もある)。

アメリカの障害レースはちよつと

カジノは避暑地のカジノといってもハイソなものではなく、こちらもよくあるアメリカのマシン系カジノ。1700台のスロットマシンや各種デジタルゲームが揃っている(純粋なテーブルゲームは無い)。

食事は、カジノにステーキハウスとビュッフェレストランがあるほか、一応競馬場にもトラックサイドレストラン(ビュッフェ形式)がある。ただホームページの受け売りで、筆者自身が利用したことはないのだからあまり自信はない。

最後に、サラトガで競馬といえどもうひとつ忘れてはならないものがある。そう、名譽の殿堂だ。正式名称は「ナショナルミュージアムオブレーシング・アンド・ホールオブフェイム」という。競馬博物館+名譽の殿堂だ。

休館日は季節によって異なるのでホームページで確認していただきたいが、開館時間はおおむね9時から17時。そして、本気になれば1日じゅう見られるだけの展示物がある。入館料10ドルは正直安い。

館内は時代ごとの区分やエクリプス賞関連「レース当日の様子」「三冠レース」「障害」といった

特殊な体系になっており、高額入場料で馬術大会のような形で行なわれる開催がけっこう多い。いわゆる普通の競馬開催の中に障害レースが含まれているとすると、このサラトガと、あとはベルモントくらい。日本から行く競馬ファンが障害の馬券を楽しもうとする場合はこの2競馬場が候補になる。

ちなみにアメリカの障害レースはそれほど難易度の高い障害を飛んでいるわけでもなく「ステイブルチェイス」と言い張ることが多く、エクリプス賞にも部門がある。かつてはフリーダーズカップステイプルチェイスというレースもあったが、いまはグラントナショナルハドルステークスという名前で、ニュージャージー州フェアヒルズで行なわれている。今年10月19日に行なわれる予定で、入場料がなんと100ドル。そう考えると普通の入場料で障害競馬を見られるサラトガやベルモントは安い。

サラトガといえどもうひとつ、筆者も参加したことがないので無責任におすすめることになるが、サラトガ競馬場では「ブレイクファストアットサラトガ」という企画をやっている。競馬場の朝食会+施設見学会のようなもので、今年の

テーマごとに分けられた展示室がある。私は競馬の紙モノ収集家なので、古い時代の入場券や馬券、プログラムなどを見だしたらもう止まらない。トロフィー類もかなり展示されているので、知っている名馬にまつわる品を見たという人は、そちらに時間を割くというだろう。

名譽の殿堂は館内の一番奥にあり、展示ホールのようなところの壁沿いに殿堂入りした人馬のプレートや、馬主については勝負服が飾られている。日本人になじみの深い人馬もたくさん殿堂入りしているの、それを見つけた作業も楽しい。

そしてギフトショップ。品揃えはかなり充実しているのでここに割く時間も考えておかねばならないし、競馬場でありお金を使いたくないようにしておきたいものである。

最後に、この博物館では館内スペースのレンタルも行なっており、結婚式もできる模様。ちなみに名譽の殿堂をパーティ会場として借りると3時間あたり2000ドルで、150人着席のパーティができるそうだ。ちょっと憧れてしまうパーティ会場である。